二〇一二年一月二三日（参加者一七名）

初句会古希傘寿卒寿勢揃ひ　うつぎ
ロゼワイン酌みてわたしの女正月　〃
竹爆ぜて峡にとよもす大とんど　〃
歌かるた犬養節に詠みにけり　〃
笹鳴きのとぎれとぎれや杣の径　宏虎
寄せ植えの白砂を分けて福寿草　〃
幾万の水仙揺らす磯の風　〃
吉兆を仰山つけて脱不況　百合
海に向く竜馬の像に初茜　〃
嵯峨小径さゆらぐ竹の淑気かな　〃
初笑ひ百面相の嬰の顔　有香
和太鼓の一打が合図吉書揚げ　〃
囲みたる顔みなまっ赤とんど焼き　よし子
谷戸深く炭焼く煙直立す　〃
万歩計百歩増へたる春隣　泰三
街灯の等間隔の朧かな　〃
絵手紙に存問の一句寒見舞　満天
句仲間の句集賜る初句会　〃
恙なく介護の母と初御空　わかば
客去りて心おきなく寝正月　明日香
炭窯に挿す幣真白年始め　小袖
露天湯に灘一望す避寒かな　はく子
宮四温お初徳兵衛睦まじく　〃

定例句会みのる選

二〇一二年一月二三日（参加者一七名）